

# 電 気 設 備 施 工 標 準

(平成24年度版)

倉敷市環境リサイクル局下水道部下水施設課

## 目 次

1. 総 則	・ ・ ・ ・ ・	1
2. 配線工事	・ ・ ・ ・ ・	2
3. 配管工事	・ ・ ・ ・ ・	3
4. 配管・配線工事	・ ・ ・ ・ ・	4
5. ケーブルラック工事	・ ・ ・ ・ ・	5
6. 盤仕様(1)(2)	・ ・ ・ ・ ・	6, 7
7. 基礎工事(1)(2)	・ ・ ・ ・ ・	8, 9
8. 接地工事(1)(2)(3)	・ ・ ・ ・ ・	10, 11, 12
9. 計装機器据付工事	・ ・ ・ ・ ・	13
10. 試験	・ ・ ・ ・ ・	14
11. 土工事	・ ・ ・ ・ ・	15

施工標準	タイトル	総則	No.	1					
<p>1. 目的</p> <p>下水道部における電気設備工事において、各種法令や仕様書で見落としがちな基準及び、細部まで定められていない仕様について取りまとめ工事ごとの施工方法の標準化および統一化をはかり工事の出来形品質の向上を目的とする。</p> <p>2. 適用</p> <p>倉敷市下水道部の所轄する電気設備工事とする。</p> <p>但し、本「施工標準」による施工が適当でない場合は、監督員と協議し、監督員の指示する施工方法による。</p> <p>3. 内容の分類</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Ⓣ . . . 下水事業団仕様</li> <li>Ⓢ . . . 倉敷市仕様</li> <li>Ⓣ . . . 電気設備技術基準</li> <li>Ⓣ . . . 内線規程</li> <li>Ⓣ . . . J I S</li> <li>Ⓣ . . . 建築設備耐震設計・施工指針2005年版</li> <li>Ⓣ . . . 公共建築工事標準仕様書（電気設備工事編）</li> <li>Ⓣ . . . 電気設備工事監理指針</li> </ul> <p>4. 優先順位</p> <p>各仕様書等の優先順位は、原則以下のとおりとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①各種関係法令</li> <li>②図面，特記仕様書</li> <li>③倉敷市下水道工事施工標準</li> <li>④下水道事業団 電気設備工事一般仕様書・同標準図</li> <li>⑤公共建築工事標準仕様書・標準図（電気設備工事編）</li> <li>⑥電気設備工事監理指針</li> </ul>									
作成	H24.10.01	更新	H . .						

1. 共通事項

- ・ 工事に使用するケーブル，電線は，原則エコケーブル，エコ電線とする。④
- ・ ケーブル敷設施工前にケーブルサイズ及び芯数について計算を行いそれを監督員に提出し承諾後，施工を行うこと。
- ・ やもえずラック上やピット内等でケーブルを接続する場合は，レジン注入工法によること。④
- ・ 電力ケーブルと弱電ケーブルは，直接接触しないように施工すること。

(例 PF管，スパイラルチューブ，ビニルチューブ，ゴムシート等により隔離)

④ 第189条2

- ・ 布設後の電線・ケーブルの許容曲げ半径（内側半径）は，下表によること。

④

ケーブルの種別	単芯以外	単 芯
電線	—	仕上がり外径の8倍以上
低圧ケーブル 制御ケーブル	仕上がり外径の6倍以上	仕上がり外径の8倍以上
低圧遮へい付ケーブル 高圧ケーブル	仕上がり外径の8倍以上	仕上がり外径の10倍以上

注) トリプレックスはより合せ外径

- ・ 布設時の許容張力，許容側圧は，メーカーの基準内で施工とすること。④
- ・ 電力ケーブル及び制御ケーブル，計装ケーブルは，同一電線管に入線しないこと。④ ④
- ・ 最初及び最終のハンドホール内では余長を一巻程度取ること。④  
また，途中のハンドホールについても出来る限り余長を取ること。④
- ・ ハンドホール内には，アクリル製の行先表示札を取り付けること。④
- ・ プルボックス内については，可能な限り余長取ること。④
- ・ インバーター用ケーブルは，高調波対策としてシールド線を使用すること。

④

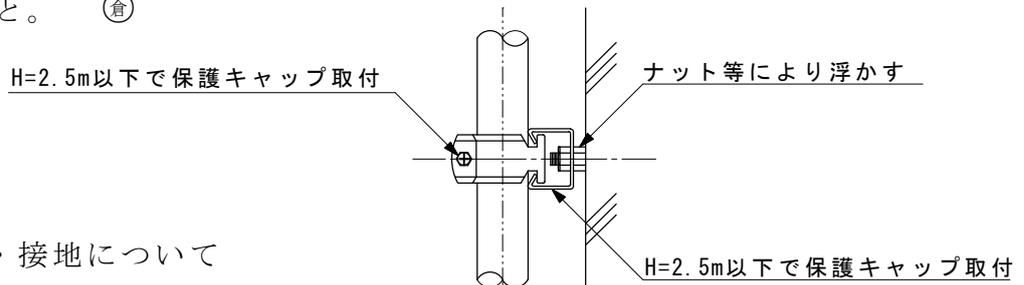
1. 共通事項

(1) 配管支持について

- ・ 工事で使う配管支持材，アンカー等はS U S 製とする。 ㊦
- ・ 壁，床等に配管を固定する場合，配管支持材をナット等で浮かすこと。 ㊦

【コンクリートの石灰化による腐食を防ぐため】

- ・ HIVE28以下の硬質塩化ビニル電線管は，支持ピッチを1 m以下とする。 ㊦
- ・ 高さ2.5m以下の配管支持材には，安全性を考慮し保護キャップを取付ける。 ㊦
- ・ コンクリート柱に配管固定する自在バンドには，接続部にカバーを取付ける。
- ・ 配管施工前に管サイズについて計算を行いそれを監督員に提出し承諾後，施工を行うこと。 ㊦

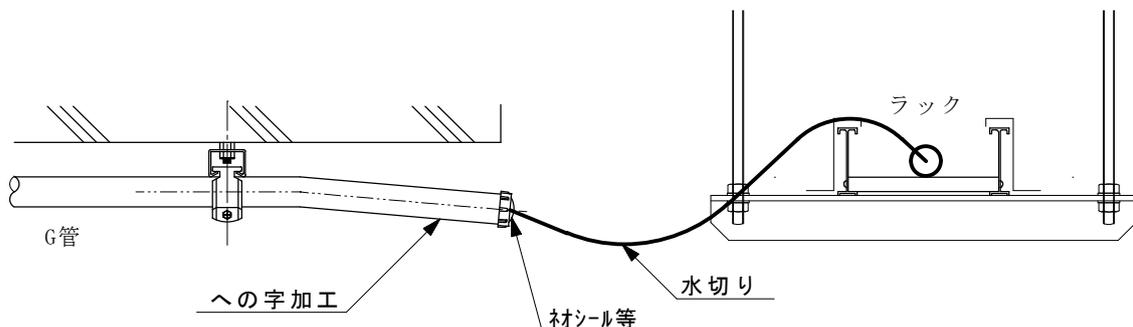


(2) 配管塗装・接地について

- ・ 弱電以外の金属製配管には，ボンディングを行うこと。この場合，塗装を剥がして施工すること。 ㊦ (工事写真が必要)
- ・ 金属管の塗装は，取付前に塗装を行い取付後にタッチアップを行うこと。 ㊦
- ・ 機器接続用の可とう電線管は，ニポレックス製V F S形同等以上としコネクタは，真鍮製とすること。 ㊦

2. 屋外配管について

- ・ 屋外G配管には，原則ノーマルベンドを使用せずベンダーにて施工のこと。 ㊦
- 【接続箇所の腐食による浸水を防ぐため。】
- ・ 水平配管終端部のケーブル取込口には，へ字に配管を曲げ水勾配をとること。
- ・ 屋外，地下等の機器，盤に接続する配管端部には，ネオシール等により湿気対策をすること。 ㊦
- ・ ラック等から屋外配管へ入線するケーブルには水切りを施すこと。 ㊦



各工種における支持間隔等は，原則以下の表のとおりとする。

工 種	施工種別	支持間隔	占有率他
金属電線管	露出配管	2.0m以下	ケーブル1本 45%以内
	接続点・曲部・管端	0.5m以下	ケーブル2本 22.5%以内 ケーブル3本 30%以内
合成樹脂電線管 [HIVE, VE]	露出配管 [22, 28]	1.0m以下	ケーブル1本 45%以内
	露出配管 [36以上]	1.5m以下	ケーブル2本 22.5%以内
	いんべい配管	1.0m以下	ケーブル3本 30%以内
	接続点・曲部・管端	0.3m以下	伸縮カップリング 10m以内
合成樹脂電線管 [PF, CD]	露出配管	1.0m以下	電線1本 42%以内
	いんべい配管	1.0m以下	電線2本 25%以内
	接続点・曲部・管端	0.3m以下	電線3本超 32%以内  ケーブル1本 45%以内 ケーブル2本 22.5%以内 ケーブル3本 30%以内
金属ダクト	ダクト支持 幅300mm以下	2.4m以下	
	ダクト支持 幅300～600mm	2.0m以下	
	ダクト支持 幅600mm以上	1.8m以下	
	水平部ケーブル支持	3.0m以下	低圧ケーブル 20%以内 弱電ケーブル 50%以内
	垂直部ケーブル支持	1.5m以下	
ケーブルラック	水平ラック支持	3.0m以下	伸縮接続金具 15m以内 伸縮接続金具 15m以内  高圧ケーブル 低圧幹線ケーブル } 1段積 低圧動力ケーブル } 計装ケーブル } 2段積以下 制御ケーブル }
	垂直ラック支持	1.5m以下	
	10mを超えるラック振止	10m以下	
	水平部ケーブル支持	3.0m以下	
	垂直部ケーブル支持	1.5m以下	
金属製可とう 電線管	水平方向	1.0m以下	ケーブル1本 45%以内
	人が触れるおそれ有	1.0m以下	ケーブル2本 22.5%以内
	接続箇所	0.3m以下	ケーブル3本 30%以内
金属線ぴ	1種 [メタルモール]	1.0m以下	20%以内
	2種 [レースウェイ]	1.5m以下	

※ 施工上，上記の基準を満足できない場合は，協議書にて監督員の了解を得ること。

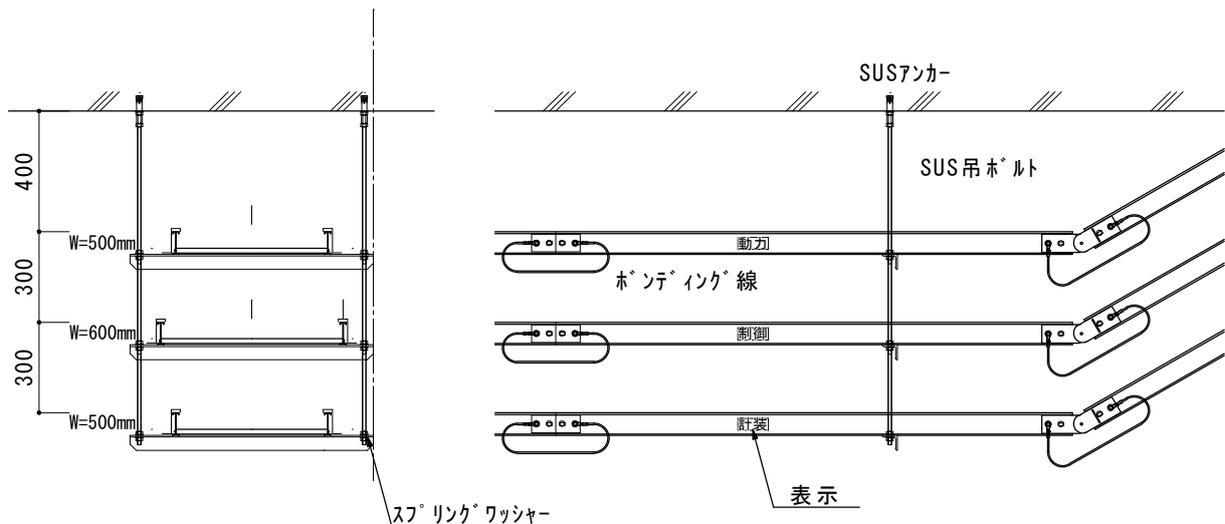
1. 共通事項

- ・ケーブルラック施工前にラックサイズについて計算を行い，それを監督員に提出し承諾後，施工を行うこと。 (倉)
- ・ケーブルの積載重量を算出し，ラック取付アンカーの耐震計算書を提出すること。 (倉)
- ・特記無きラックの仕様は，アルミ製桁高さ70mm以上とする。 (下)
- ・ラックの接地については，適切なアース種別のボンディングを施すこと。接地線の太さは，5.5<sup>2</sup>以上とする。 (下)
- ・新設ラックには見えやすい場所にアクリル板等により，10m以内ごとに用途を表示すること。 (下) (倉)
- ・10mを超えるラックには，10m以内の間隔で振れ止めの施工を行うこと。 (耐)
- ・取付金具材質は，ステンレスまたは溶融亜鉛メッキHDZ55以上とすること。(倉)
- ・建築物のエクステンションジョイント部分は，ラックを接続しないこと。(耐)
- ・鋼材への挟み込み金具を使用する場合は，水平方向よりの引張荷重が働いても脱落を防ぐ構造の吊具を使用すること。(耐)
- ・ラックの接地は，接地を施した場所が分かるように表示を付けること。(下)
- ・ケーブルの布設は，原則以下のとおりとする。(下)

高圧ケーブル，低圧幹線ケーブル・・・1段積

低圧動力，計装及び制御ケーブル・・・2段積み以下

- ・ラックを多段施工する場合の上下間隔は，原則以下のとおりとする。(倉)
- ・ケーブルの結束は，丈夫なひもで行うこと。(インシュロックは不可) (倉)

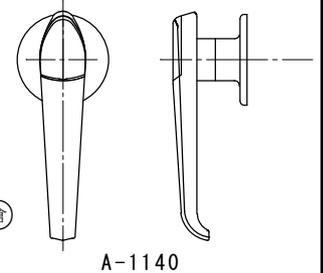


1. 製作盤の仕様は、以下のとおりとする。

(1) 盤構造について

① 盤取っ手

- ・新設盤の取っ手はステンレス製にクリアラッカー塗装仕上げとする。(下)
- ・新設盤の取っ手は原則タキゲンA-1140相当品とし鍵は、既設に合わせる。  
新設の場合原則No.200とする。(倉)
- ・自立盤には、原則ロット棒を取り付ける。(倉)

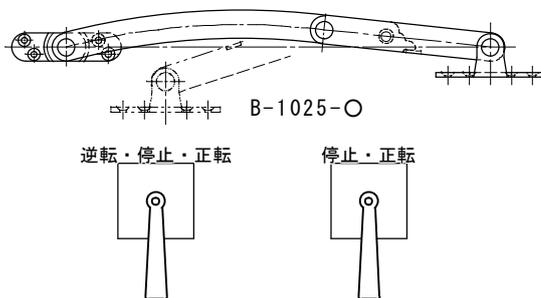


A-1140

② 盤ストッパー

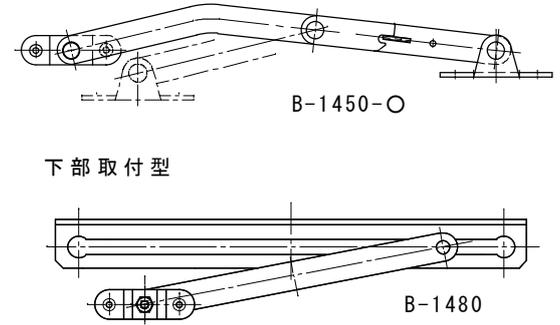
- ・屋外、屋内盤に限らずドアストッパーを取り付ける。(倉)
- ・新設盤のストッパーは、ステンレス製とする。(倉)
- ・新設盤のストッパー形状は、盤の形状により選択する。(倉)  
タキゲンB-1450, B-1025, B-1480相当品とする

上部取付型



B-1025-O

下部取付型



B-1450-O

下部取付型

B-1480

③ 盤構造その他

- ・現場盤の奥行きは、支障がない範囲で小さくすること。(倉)
- ・屋外盤外側の塗装厚は、60μm以上とすること。(倉)
- ・ドアスイッチの扉への接触部分は、塗装が剥がれないよう保護すること。(倉)
- ・CSスイッチの配置は、原則、正転[右]、逆転[左]とすること。(倉)

(2) 盤内面について

① 共通事項

- ・充電部には、保護カバーを取り付けること。
- ・盤内照明のグロー球は、電子点灯形とすること。(倉)
- ・盤内の銘板に重量を明記すること。(撤去時に有価物控除するため)(倉)
- ・下面と側面等には、ケーブルサポートを取り付ける。
- ・ランプテストは、原則全てのランプを点灯させる。(R,G動作ランプは除く)
- ・のぞき窓がある屋外盤で表示灯があり、直射日光を受ける位置に設置される場合については、表示が確認できるような対策を講じること。(倉)  
(紫外線カットの遮光フィルム等)
- ・盤内主要機器銘板は、アクリル製とすること。(倉)

② スペースヒータ

- ・屋外、地下等の湿気のある場所にはスペースヒータを取り付ける。(下)
- ・スペースヒータは、サーモスイッチ付とする。(倉)
- ・スペースヒータは、スナップスイッチ、CP、COSで切れるようにすること。(倉)

③ 接地

- ・接地端子は接地線が別々に2本以上接続できるものとする。(下)
- ・接地端子への線の接続は、1端子2本までとする。(倉)
- ・接地母線は、他の接地線と一緒に接続しないこと。(倉)
- ・盤扉アース線は、ビニールチューブ等で保護すること。(倉)

④盤内のケーブル表示およびケーブル札について

- ・ケーブルには、下の情報を明記しケーブルに貼り付けること。  
また、同じ内容のものをケーブル札として取り付けること。㊦
- ・上記の表示は、盤を開けて読める位置に取り付けること。㊦



⑤端子台位置

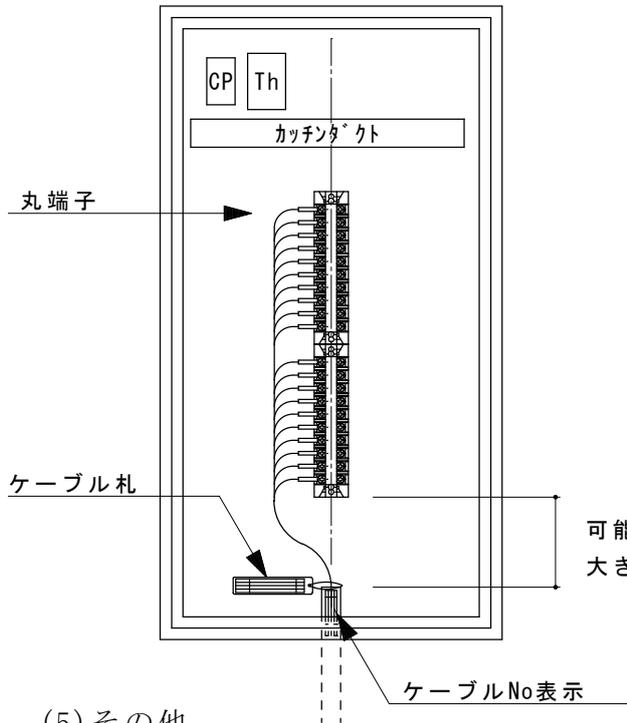
- ・ケーブルの立ち上がりや、納まりを考慮して端子台位置を決めること。㊦

(3)コンクリート基礎への配管について

- ・将来の増設分を考慮し配管サイズを選定し、場合によっては予備配管を準備すること。㊦

(4)予備品

- ・盤予備品は、プラスチックケース（衣装ケース等）に納めて納入すること。  
また、型番が入った予備品リストをクリアケースに入れて納めること。㊦
- ・下水道事業団の仕様書通りの予備品を納入すること。



施工年月：平成○○年○月

工事名：○○○○○○○○○○○○○○○○工事

受注者：○○○○○○○○○○株

施工者：○○○○○○○○○○株

〔改造盤表示例〕

可能な限りこの寸法を大きく取ること

(5)その他

- ・沿岸部より300m以内の地域は、塩害対策を講じた仕様とすること。㊦
- ・既設盤の改造を行う場合は、工事名、施工年月、受注者を扉裏面に表示すること。㊦
- ・盤内でできる限りケーブル余長を取ること。㊦

1. 電気室（ピット有）の盤取付アンカー

ピット用の盤取付は、下図のとおりとすること。

1) ピット端からアンカー位置までの寸法が90mm以上

①シンダーコンクリートの打設時の強度が分からない場合は、長穴用ドリルを使用しスラブまで穴をあけスラブにアンカーをセットすること。

※シンダーコンクリートの打設時の強度が分からない場合は、各種アンカーボルトの許容引抜荷重を1.0kN/cm<sup>2</sup>で計算を行うこと。 (耐)

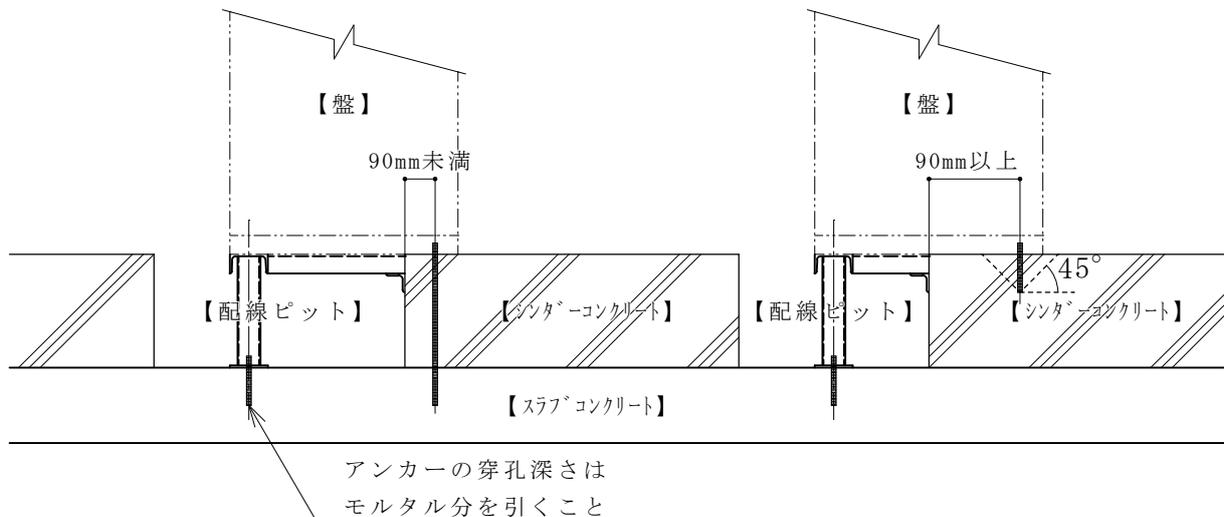
②シンダーコンクリートの強度が完成図書等で確認でき計算上もつ場合は、シンダーにアンカーを打っても良い。

この場合45°以上のへりあき寸法があること。 (耐)

2) ピット端からアンカー位置までの寸法が90mm未満

①長穴用ドリルを使用しスラブまで穴をあけスラブにアンカーをセットする

[ピット端からアンカー位置までの寸法が90mm未満] [ピット端からアンカー位置までの寸法が90mm以上]  
または、シンダーコンの強度が分からない場合]



2. 電気室ピット蓋加工

- ・盤取付位置に取っ手付蓋がある場合は、他の取っ手無蓋と取替えること。(倉)
- ・蓋加工後の切口の塗装は、錆止め2回、塗料2回塗りとすること。(写真必要)

(倉)

3. その他

- ・メカニカルアンカー及び、ケミカルアンカーの施工状況毎の工事写真を撮ること。(倉)

施工標準	タイトル	基礎工事(2)	No.	9
<p>1. コンクリート基礎</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 計算書を作成し設計図基礎で大丈夫か確認すること。</li> <li>・ アンカーサイズについては計算書を作成し決定すること。</li> <li>・ 上記については、計算書を市に提出し承諾後に施工をすること。 注) 承諾前の施工については、やり直しを求める場合あり。</li> <li>・ 鉄筋入り基礎の場合、コンクリートを打設する前に監督員の配筋検査を受けること。</li> <li>・ コンクリートの配合報告書を施工前に提出すること。</li> </ul> <p>2. 盤アンカー計算書</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ アンカー計算は、建築設備耐震設計・施工指針2005年版及び、電気設備必携（下水道事業団）によること。 (倉)</li> <li>・ 地域係数は、原則として1.0を使用すること。 (倉)</li> <li>・ 機器の重要度は、電気設備工事必携・第6節地震対策・表によること。</li> </ul> <p>3. 現場盤基礎</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 施工図を描く前に標準図のどのタイプでいくか監督員に事前に報告すること。</li> <li>・ 屋外盤の場合、基礎に水勾配を少しとること。 (倉)</li> </ul>				
作成	H24.10.01	更新	H . .	更新
H . .	更新	H . .	更新	H . .
更新	H . .	更新	H . .	

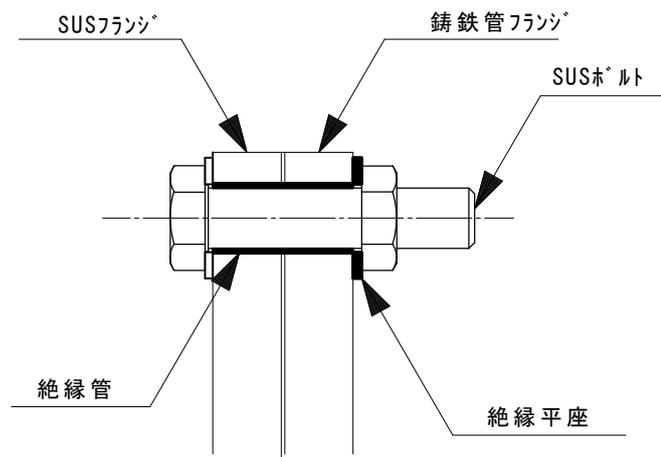
1. 仕様確認

- ・設計の計測方式でシステムの的に問題ないか検討すること。
- ・計装機器の電極等の部材を計測物質及び周辺環境について適切か確認すること。 (倉)
- ・電磁流量計の前直線部 5 D 以上を確保すること。  
(メーカーの基準を確認のこと)

- ・洗浄水配管及びバルブの材質及び塗装は、機械設備の仕様と合わせること。  
(倉)

2. フランジ接続機器

- ・フランジ規格は、機械設備に確認し合わせること。 (倉)
- ・異種金属をフランジ接続する場合は、絶縁ボルトを使用すること。 (倉)
- ・フランジ接続用のボルトはステンレス製とすること。 (倉)
- ・差圧式水位計のダイヤフラム部にエアだまりができないように注意すること。  
(倉)



1. 接地種別とその用途

接地種別	抵抗値	用途	使用場所
E <sub>A</sub>	10Ω以下	高圧機器用	
E <sub>AL</sub>	10Ω以下	避雷用	避雷器
E <sub>B</sub>	計算による	変圧器低圧側中性点	
E <sub>C</sub>	10Ω以下	300V以上の機器	
E <sub>CK</sub>	10Ω以下	計装用	シーケンスコントローラ、プログラマブルコントローラ、計装機器、信号ケーブルシールドアース
E <sub>D</sub>	100Ω以下	300V未満の機器	
E <sub>D ELB</sub>	100Ω以下	漏電遮断器負荷	
E <sub>D IVT</sub>	100Ω以下	インバータ	使用電圧300V以下のインバータ
E <sub>D t</sub>	100Ω以下	保安器用	

※SPDの接地は、機器接地と同じとすること。

2. 接地線の太さ

- ・ 電路中に接地された過電流保護器が、その定格電流の20倍に相当する地絡電流が流れた時、0.1秒以内に回路遮断するものとし、導体の温度上昇が120度（周囲温度30度として導体温度150度）を超えない電線の太さとする。

$$A = 0.052 I_n \quad A: \text{銅線の断面積} [\text{mm}^2] \quad \text{⑨} \quad 1350-3$$

$I_n$ : 過電流遮断器の定格電流 [A]

3. 接地線及びボンド線の太さ ⑩

管接続におけるボンド線の太さ		電動機用配管のボンド線の太さ		
配線用遮断器などの定格電流	ボンド線の太さ	200V級電動機	400V級電動機	ボンド線の太さ
100A以下	2.0mm以上	7.5KW	30KW	2.0mm以上
225A以下	5.5 <sup>□</sup> 以上	22KW	45KW	5.5 <sup>□</sup> 以上
600A以下	14 <sup>□</sup> 以上	37KW	75KW	14 <sup>□</sup> 以上

接地幹線                    60<sup>□</sup>以上

交換機設備用接地線

通信用アース	電子交換方式	14 <sup>□</sup> 以上
保安装置アース	本配線盤用	14 <sup>□</sup> 以上
	加入者保安器用	1.6mm以上

アンテナ保安器            2.0mm以上

拡声用増幅器              2.0mm以上

施工標準	タイトル	接地工事(2)	No.	1 2					
<p>4. 接地極新設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 接地極はGL-750mm以上の深さに敷設すること。 (電) 20条2項AB種準用</li> </ul> <p style="text-align: center;">【写真必要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 接地線は、GL-750mm以上～GL+2,000以上まで硬質ビニル電線管にて保護すること。 【スケールを当てての写真必要】 (電) 20条2項AB種準用</li> <li>・ 接地極相互の離隔距離は、原則2m以上とすること。 (内) 1350-16準用</li> <li>・ 接地低減材の使用は、原則認めない。 (倉)</li> <li>・ 接地極の並列接続の場合極相互間は2m以上離すこと。又接地棒を連結して深打した場合の並列接続の極相互間は埋設深さの3倍以上とする。 (監)</li> <li>・ 接地線は接地すべき機器から0.6m以内の部分及び横走り部分及びピットを除き合成樹脂電線管等で保護すること。 (内) 1350-3</li> <li>・ 接地線を人が触れる恐れのある場所で鉄柱のような金属体に沿って施設する場合は接地極を地中で、その金属から1m以上離すこと。 (電) 第20条2項</li> <li>・ 低圧屋内配線と弱電流を堅ろうな隔壁を設けて収める場合の電線保護物の金属部分及びガス蒸気危険物所及び粉塵危険物所内の低圧の機器の露出金属部分の接地はC種接地とする。 (電) 第189条3 (下)</li> <li>・ A種、B種工事で接地線を人が触れる恐れのある場所の接地線の接地極から地表上60cmまでの部分及び接地線を鉄柱その他の金属体に沿って施設する場合の接地線全てに絶縁線(OW線を除く)キャプタイヤケーブル、通信ケーブル以外のケーブルを使用すること。 (電) 第22条</li> </ul> <p>5. 接地幹線布設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ アース幹線を新設する場合は、電線メーカーを変えるなどして接地種別が識別できるようにすること。 (倉)</li> <li>・ 接地母線の太さは、60sq以上とする。 (下)</li> <li>・ ラック上では、一定間隔ごとにアースの種別を表示すること。 (倉)</li> </ul> <p>4. 既設接地幹線への接続</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 既設接地線に接続する場合は、事前に監督員の承諾を得ること。 (倉)</li> <li>・ 既設接地線との接続は、蓄力コネクタにて行い、ビニルテープ(緑)を巻くこと。 【各工程写真必要】 (倉)</li> <li>・ 既設接地線との接続箇所には、電線にケーブル札と同等なものを取付のこと。 (下)</li> <li>・ 既設接地極の抵抗値を測定または導通を確認すること。 (倉)</li> </ul> <p style="text-align: center;">【写真必要】</p>									
作成	H24.10.01	更新	H . .	更新	H . .	更新	H . .	更新	H . .

施工標準	タイトル	接地工事(3)	No.	13
<p>6. その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インバータの電源線及び制御線はシールド線で専用アースに落とすこと。</li> <li>・インバータは、専用アースとする。専用アースがない場合は、監督員の指示による。</li> <li>・ケーブルのシールドは1箇所接地すること。〔共通〕</li> <li>・変成器の2次側接地は配電盤側とする。〔共通〕</li> <li>・測定用補助接地極は接地銅棒 L = 1.5m, D = 14mmとし その配置は被測定極より直線に10m以上の間隔にて工事すること。 ㉔ C1304</li> <li>・接地極及びその裸導体の地中部分は、避雷設備用避雷器の接地極及びその裸導体の地中部分と2m以上離すこと。 ㉕ 1350-16</li> <li>・仮設等で接地棒を使用しない場合は25mm以上、長さ0.9m以上の亜鉛メッキガス管もしくは厚鋼電線管であること。 ㉖ 1350-7</li> <li>・鉄棒を使用する場合は12mm, 長さ0.9m以上の亜鉛メッキを施したもの。</li> </ul> <p style="text-align: right;">㉗ 第20条</p>				
作成	H24.10.01	更新	H . .	更新
H . .	更新	H . .	更新	H . .
更新	H . .	更新	H . .	

施工標準	タイトル	試験・試運転				No.	14
<ul style="list-style-type: none"> <li>・試験を行う前に試験要領書を提出し承諾後実施すること。</li> <li>・M単試験，総合試運転は，機械設備業者立会いの下行うこと。</li> <li>・ケーブル布設後に，導通試験及び絶縁試験を実施すること。</li> <li>・総合試運転には，原則監督員が立ち会うものとする。</li> </ul>							
作成	H24.10.01	更新	H . .	更新	H . .	更新	H . .

- ・根切幅については、図面に明記がある場合で、その幅としない場合は施工図にて掘削断面図を描き承諾後施工のこと。
- ・根切幅が1mを超える場合は、原則として2段積、3段積とすること。④

掘削形状

掘削深さ1mまで 直掘り

掘削深さ1mを超える場合 傾斜掘り

F E P 管相互間隔

FEP30, 50 50mm

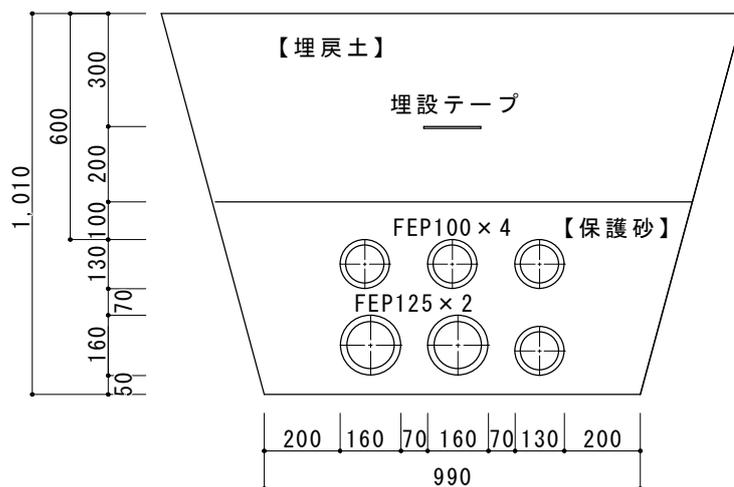
FEP80~150 70mm

FEP200 100mm

配管両サイドの余幅

1段積 150mm

2段積 200mm



(掘削断面例)

保護砂

配管下 50mm

配管上 100mm

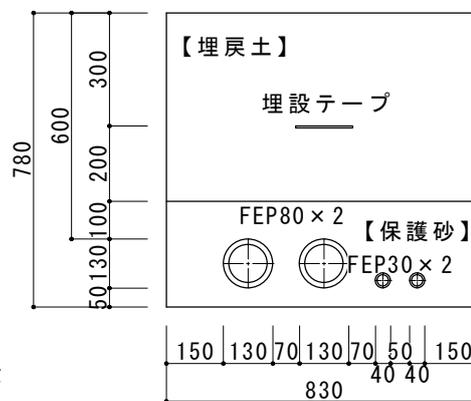
埋設テープ

2倍折以上  
幅150mm

強電, 弱電管がある場合, 2条施工すること

高圧ケーブル布設時

電圧種別, 埋設年月を2mごとに表示すること



(掘削断面例)

・写真撮影について

倉敷市プラント工事写真撮影要領（機械設備, 電気設備）によること。

掘削前には既設埋設物について事前調査を実施すること

転圧（30cm厚毎）以内ごとに行い機械転圧回数は、3往復とする。④